

名稱

圓形ナレバナリ、又大服トテ、元日ニ若水ヲ沸カシテ茶ヲ點ジ、梅干ヲ入レテ之ヲ服ス、胸膈ヲ清クシ、一年ノ邪氣ヲ禳フノ意ナリ、凡ソ年始ノ祝儀トシテ用キルモノ、一トシテ祝意ヲ寄セザルハナシ、例ヘバ大服ニ梅干ヲ用キルハ、其面上ノ皺ニ似タルヲ以テ、延齡ヲ祝スルナリ、雜煮ニ芋及ビ數ノ子ヲ加フルハ共ニ多子ノ義ニ取ルナリ、蓬萊ニ昆布ヲ飾ルハヨロコンブノ縁語ナレバナリ、獨リ此等ノ飲食ノ中ニ祝意ヲ表スルノミナラズ、使用ノ言語モ亦務メテ不祥ヲ忌避ス、例ヘバ衰日ヲ徳日、又ハ得日ト稱シ、疾病ヲ歡樂ト唱ヘ、寢起ヲ稻積、稻舉ナド云フ類是ナリ、蓋シ正月ハ一年ノ始ナレバ、百事凶ヲ避ケテ吉ニ就キ、以テ前途ノ福祉ヲ希フノ意ニ外ナラザルナリ、

〔伊呂波字類抄^福〕年始 年首 年頭

〔運步色葉集^福〕年甫 年頭

〔下學集^上時節^下履端正月履一切之事肇歲正月也、甫年正月也、

〔世諺問答^上〕正月は、どしの始の祝事をして、知る人なるはたがひに行かよひ、いよ／＼したし
みむつぶわざをし侍る。○下

〔歌林四季物語春〕そもそも、あら玉のとしたらちかへる、くもゐの庭の、御おほやけごとよりはじ
めものして、あまさかるひな人までも、むつきのことたつことぶきのめでたかるべきにめし、
はじめためりしは、こともおろかや、人の世みはしらにあたらせたまふうきあなのみやゑ安
寧より、この事宮の中にもとりおこなひ給ひ、四の海の外までもいはひものすることにな
りぬ、まことにいつとはなけれども、一とせのとぢめとは玄るくも見えてたてまつる御氣し
かうぶりてつらまでも春めき、ふるとしの具は古代めきたるは、人の心の花になりゆくなる
べし、